

令和 6 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属坂戸高等学校	校長名	江前 敏晴
幼児・児童・生徒数（R7.3.1 現在）	467	学級数	12
2 教育目標等			
① 学校教育目標	複雑で予測の難しい社会の変化を自分自身のこととして前向きにとらえ、自分と自分のまわりの幸せを願い、社会に生きる一人の「主人公」となって自らの可能性を最大限発揮し、多様な他者と協働することで、新しい未来の姿を構想し実現していく人材の育成を目指す。 「Engage today. Empower tomorrow.」（明日をつくる、今を生きる。）		
② 学校経営方針	1. 「先導的教育拠点」として総合学科教育をリードする役割を果たす。 2. 「国際教育拠点」としてグローバル共生教育を積極的に進める。 3. 「教師教育拠点」として教育実習、教員研修の機会を提供する。 4. 「時代を拓く学校教育のあり方」を大学と連携し示す。 5. 「教職員の働き方の改善」に努める。		
③ 重点目標	・ 令和 7 年度に向けて学期制、教育課程の変更を進める。 ・ 本校の第 3 期から第 4 期改革をまとめた書籍を出版する。 ・ SEA-teacher プログラムなど海外大学と連携した取り組みや海外姉妹校などからの留学生受け入れや本校生徒の留学・派遣を積極的に進める。 ・ 新しい校外学習を企画・実施する。 ・ 海外校外学習の運営方法について検討する。 ・ ESD シンポジウムを開催する。 ・ 積極的に学校説明会等を開催（参加）する。 ・ IB 教育の理解を広げるため体験授業や説明会の回数を増やす。		
④ 前年度（令和 5 年度）の成果と課題	【成果】 ・ 第 27 回総合学科研究大会を実施した。 ・ 総合学科教員の研修機会を提供した。 ・ 高大接続科目「国際農業研修Ⅶ」を実施した。 ・ SEA-teacher パイロットプロジェクトを実施した。 ・ 第 12 回高校生国際 ESD シンポジウムを実施した。 ・ 海外校外学習（2 カ国 3 展開）を実施した。 ・ イオン 1% クラブティーンエイジアンバサダープログラムに採択された。 ・ 三菱みらい育成財団による高等学校等が学校現場で実施する「心のエンジンを駆動させるプログラム」に採択された。 ・ IB 第 4 期生全員がディプロマを取得した。本校生徒のスコア平均は 1 期生から 4 期生まですべて世界平均を上回っている。 【課題】 ・ 教職員の働き方改革、業務の改善。 ・ 本校の教育（総合学科教育）の中学生・保護者への理解促進。 ・ 老朽化した施設設備の適切な維持管理。		

3 重点目標達成についての総括的評価

二学期制への変更については、着実に準備を進め、令和7年度から実施することができた。また、本校の第3期から第4期にかけての改革を総括した書籍の出版を通じて、これまでの取り組みを内外に発信することができた点も意義深い。国際交流においては、SEA-teacher プログラムや海外姉妹校との連携を通じて、国際的な学びの機会を拡充することができた。新しい校外学習の企画・実施や海外校外学習の運営方法の検討も進み、今後の学習活動の多様化に向けた基盤を築いた。学校の教育活動に対する理解と関心を高めるために、オープンスクールや、学校説明会を積極的に実施した。また、IB教育に対する地域や関係者の認知の拡大、普及に向けた体験授業や説明会も実施した。ただ、このような取り組みを積極的行ったにも関わらず、入学志願者について大幅に減少してしまった。次回の入試に向けて回復できるよう取り組みを強化したい。

4 令和7年度の学校課題

- 令和8年度からの教育課程改編に向けた準備を着実に進めるとともに、令和7年度より導入する二学期制の円滑な実施。
- 令和6年度末に見直した「いじめ防止基本方針」に基づく体制の整備・運用。
- 生徒一人ひとりの心身の状況に寄り添った観察とケアの実施。
- 進路選択における適切な支援。
- 設備の不備や不具合による事故の防止、緊急時対応マニュアルの見直し、危機管理体制の強化。
- 教職員の働き方改革の推進。
- コンプライアンス意識の向上、持続可能で健全な教育環境の構築。
- WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業の着実な推進。
- 学校としての将来ビジョンの明示、本校の教育的価値と方向性を明確に発信。
- 入学志願者の回復。

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- 新しい教育課程の趣旨や変更点を理解するための研修を実施。教科ごとの指導計画の見直しと作成。入試広報時における新教育課程の丁寧な説明。
- 新しい教育課程導入に合わせた学校行事等の検討。
- 方針にもとづいた校内組織の整備と運用。教職員の研修の実施。生徒・保護者への啓発活動、説明実施。いじめ発生時の迅速な対応。
- 生徒一人ひとりの適性や希望に応じた進路資料の提供、面談の実施。自己推薦書の書き方や面接対策の充実（学習支援員の活用）。保護者との連携強化。OB・OGを招いた講演会の実施。
- 毎朝のSHRでの健康観察の実施。健康相談アンケートの実施。学校全体として悩みを相談しやすい雰囲気の醸成。SNSの利用や、性教育、薬物に関する生徒向け研修の実施。
- 危険箇所をリスト化し、優先順位をつけて修繕を実施。設備異常の情報が共有される仕組みづくり。既存マニュアルの検証と改訂。緊急時の連絡体制の確認・整備。
- 会議のスリム化（オンライン活用、資料共有による短縮化）。年次休暇取得の推奨と取得率向上。
- 業務の見直し、廃止の促進。ICTの活用による業務軽減策の検討。
- 法令遵守（ハラスメント防止、個人情報管理等）に関する研修の実施。相談・報告体制の明確化。管理職による面談などを通じた改善点の把握。
- 事業目的についての教職員の理解促進。事業の円滑な実施と適切な運営管理。役割と責任分担の明確化。関係者相互の情報共有を徹底。
- 大学と連携した将来構想計画の推進。
- 各種説明会を通じた将来ビジョンの説明。

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

日本初の総合学科高校は何をめざしてきたか 2025. 筑波大学附属坂戸高等学校（学事出版）
第27回総合学科研究大会 大会資料集
令和6年度筑波大学WWL（グローバル人材育成強化事業）実施報告書（第1年次）

学 校 評 価 （自己評価） 報 告 書 （項目別表）

令和 6 年度

学校名

筑波大学附属坂戸高等学校

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-3	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況	総合的な探究の時間においては、身近な事象への関心をもち、社会との繋がりを意識しながら課題を見つけて取り組もうとする姿が見られた。1 年次の学年校外学習や選択型の海外校外学習など体験的な活動にも意欲的に参加し、自分の考えをもとに工夫して問題解決に取り組む様子がうかがえた。
1-1-4	個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の方法等の状況	特に専門教科の実習や 3 年次の卒業研究においては、興味・関心に応じた課題に主体的に取り組み、自ら問いを立てて学習を進めようとする姿が見られた。個別やグループでの活動を通して、試行錯誤しながら探究する態度が育ってきている。
1-1-6	学級内における児童生徒の様子や、学習に適した環境に整備されているかなど、学級経営の状況	学級内では落ち着いた雰囲気が保たれ、生徒が安心して学べる環境が整えられていた。概ね生徒の様子を丁寧に把握し、適切な支援を行っていたが、一部の生徒については関わりがやや不十分で、さらなる配慮や対応の工夫が求められる場面も見られた。
1-2-9	教育課程の編成・実施の管理の状況	適切な運営を行うことができた。
2-1-1	学校の教職員全体として組織的に進路指導に取り組む体制の整備の状況	進路指導において、面接練習や自己推薦書の作成指導などに多くの教員が主体的に関わり、学校全体として生徒を支援する雰囲気が見られた。
2-1-2	児童生徒の能力・適性等の理解に必要な個人的資料や、進路情報についての収集・活用の状況	個人情報の取扱いに気を付けながら、年次ごとに情報共有を行った。また、支援が必要な生徒についての情報は、学期ごとに職員会議で共有した。
3-1-5	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携協力による教育相談の状況	教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携は概ね良好で、教育相談の体制は整っていたが、情報共有の手段や方法に課題が見られた。今後は定期的な会議の実施や記録の共有方法の工夫などを進める。
3-1-7	問題行動の発生状況	生徒指導上の特別な指導の実施件数は数件発生したものの、生徒の問題行動は少なく、落ち着いた学校生活状況であった。
3-2-1	自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導の状況	生徒は校則に関する課題を自分事として捉え、自ら考えて行動する姿勢が見られた。3 月には 1 年間の取り組みを振り返り、次年度に向けて自分たちの在り方を主体的に考えることができおり、自主性・自律性の育成に一定の成果が見られた。
4-1-4	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断の実施の状況	健康診断は予定通り実施することができた。診断結果をもとに、生徒・保護者に対して受診案内を渡しているが、一定程度の生徒が通院に至っていない。学校医からもこの点については、生徒への呼びかけをしっかりと行うよう指示があった。

5-1-4	危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	令和6年度は、地震に対する危機管理マニュアルを更新することができた。順次、他のマニュアルについても更新を進める。
6-1-1	特別支援学校と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の状況	筑波大学附属の特別支援学校や坂戸市内の特別支援学級との交流も積極的に実施した。特に福祉や農業と行った専門科目の授業において、高校生が小学生や中学生の指導役として活躍する場面が見られた。
7-1-2	校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制の整備の状況	令和7年度から2年間の5部長（教務、研究、生徒指導、進路指導、IB）について、適切に決定することができた。また、企画運営委員会を通して、分掌の連絡調整を行うことができた。各分掌のリーダーシップのもと、円滑に学校運営を進めることができた。
7-1-5	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、服務監督の状況	勤怠システムを導入し、勤務管理を行っている。また、各自勤務カレンダーを作成している。業務が多く、退勤する時間の遅い職員もいる。今後、働き方改革をさらに進める必要がある。
7-1-6	各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理の状況、また、教職員への情報の取扱方針の周知の状況	生徒の個人情報は職員室で管理することを徹底している。個人情報、情報管理に関するオンデマンド教材による研修の受講も進めているが、更なる意識の向上が求められる。
8-1-2	校内における研修の実施体制の整備状況	研究部が定期的（1ヶ月～2ヶ月に1回程度）に研修会を企画し実施している。今後は、今以上に、教職員が自主的に研修を進める意識の醸成が必要である。
9-2-1	「外部アンケート等」を除き、保護者その他の学校の関係者による主体的・能動的な評価が年に1回以上定期的に実施されているかなど実施の状況	通学区域が広いという学校の特徴もあって、学校関係者による「主体的・能動的な評価」を行う場面や組織を作ることが難しかった。定期的な集まりのあるPTA活動の一貫として、学校に対する客観的な視点からの評価をお願いするなど工夫が必要である。
10-1-1	学校に関する様々な情報の提供状況	昨年度、学校の情報発信が不十分である、という指摘があったため、令和6年度は、Webサイトの更新回数を増やすよう促してきた。一方、入試結果の状況などを見ると、まだまだ情報発信が不足しているようである。今後、できるところから改善を進めたい。
14-1-99	将来に向けた学校の在り方の検討状況	校舎の雨漏りなど、施設設備について、昨年度以上に苦情を受けることが多い。施設の維持管理を含めた将来構想の策定に向けて、大学と協議を進めている。さらに、スピード感を持って、対応する必要がある。